

農福連携の推進について

令和5年10月

農林水産省 農村振興局
農村政策部 都市農村交流課

農福連携の取組方針と目指す方向

農業と福祉がつながって、日本を元気に!

ノウブク

- 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組。
- 農林水産省では、厚生労働省、法務省、文部科学省と連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取組である農福連携を推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者と同程度の農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※再生利用可能な荒廃農地は全国で約9万ha

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約965万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約100万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等



労働力の確保

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。



広がる農福連携の取組主体

- 平成31年4月、農福連携の全国的な機運醸成を図り、今後強力に推進するため、内閣官房長官を議長とした省庁横断の「農福連携等推進会議」を設置。令和元年6月には、同会議において、今後の取組の方向性を「農福連携等推進ビジョン」として決定。
- ビジョンでは、今後5年で、農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出するとの目標を掲げた。
（*注：令和元年度末から、令和6年度末にかけて）
- 農林水産省は、この目標の達成に向けて、農福連携の取組主体数の現状を把握するために、関係機関と連携して調査を実施し、令和4年度末時点において把握した結果を取りまとめた。

令和4年度末時点において把握した農福連携の取組主体数の内訳
（括弧内は前年度調査結果）

①農業経営体等による取組
農林水産省・都道府県・JA全中・JA全農調べ

取り組んでいる農業経営体等数（a）	3,000（2,672）
【参考】全国の農業経営体等数（b） （2023年農業構造動態調査から）	929,400
【参考】（a）／（b）	0.32%

令和4年度において取り組んでいた農業経営体・JA

②特例子会社による取組
農林水産政策研究所調べ

取り組んでいる特例子会社数（a）	51（50）
【参考】全国の特例子会社数（B） （令和4年6月1日時点）	579
【参考】（a）／（b）	8.81%

令和4年度において取り組んでいた特例子会社

③障害者就労施設（A型）による取組
厚生労働省・都道府県調べ

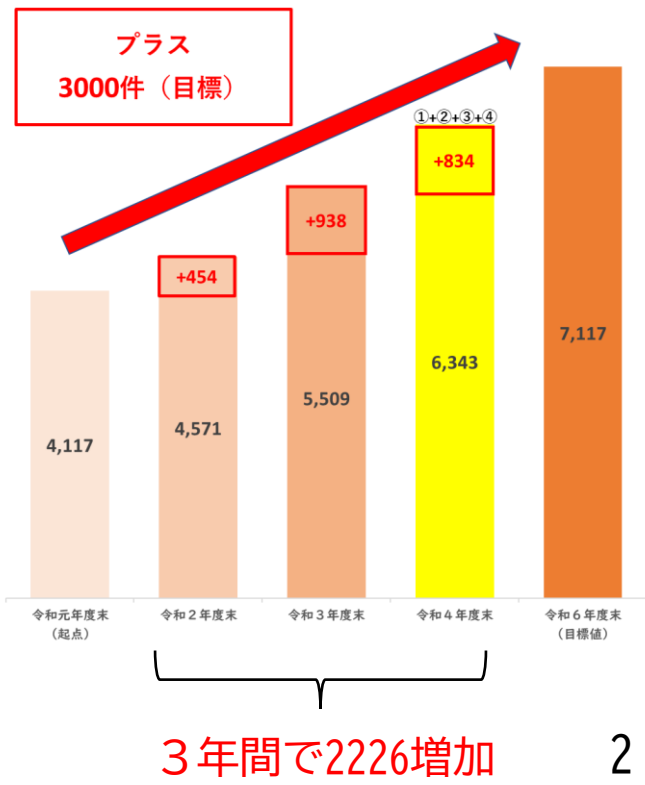
取り組んでいるA型事業所数（a）	641（544）
【参考】全国のA型事業所数（b）	4,010
【参考】（a）／（b）	15.99%

令和3年度において取り組んでいた障害者就労施設

④障害者就労施設（B型）による取組
厚生労働省・都道府県調べ

取り組んでいるB型事業所数（a）	2,651（2,243）
【参考】全国のB型事業所数（b）	14,393
【参考】（a）／（b）	18.42%

令和3年度において取り組んでいた障害者就労施設



農福連携等推進ビジョン（概要）

令和元年6月4日「第2回農福連携等推進会議」において決定

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組。年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、障害者の生活の質の向上等が期待

農福連携は、様々な目的の下で取組が展開されており、これらが多様な効果を発揮されることが求められるところ

持続的に実施されるには、農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、ユニバーサルな取組として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、様々な分野にウイングを広げ、地域共生社会の実現を図ることが重要（SDGsにも通じるもの）

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標：農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出※

1 認知度の向上

- ・定量的なデータを収集・解析し、農福連携のメリットを客観的に提示
- ・優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を分かりやすく情報発信
- ・農福連携で生産された商品の消費者向けキャンペーン等のPR活動
- ・農福連携マルシェなど東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた戦略的プロモーションの実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ・ワンストップで相談できる窓口体制の整備
- ・スタートアップマニュアルの作成
- ・試験的に農作業委託等を短期間行う「お試しノウフク」の仕組みの構築
- ・特別支援学校における農業実習の充実
- ・農業分野における公的職業訓練の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- ・農業経営体と障害者就労施設等のニーズをマッチングする仕組み等の構築
- ・コーディネーターの育成・普及
- ・ハローワーク等関係者における連携強化を通じた、農業分野での障害者雇用の推進

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- ・農業法人等への障害者の就職・研修等の推進と、障害者を新たに雇用して行う実践的な研修の推進
- ・障害者の作業をサポートする機械器具、スマート農業の技術等の活用
- ・全国共通の枠組みとして農業版ジョブコーチの仕組みの構築
- ・農林水産研修所等による農業版ジョブコーチ等の育成の推進
- ・農業大学校や農業高校等において農福連携を学ぶ取組の推進
- ・障害者就労施設等における工賃・賃金向上の支援の強化

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- ・農福連携を行う農業経営体等の収益力強化等の経営発展を目指す取組の推進
- ・農福連携の特色を生かした6次産業化の推進・障害者就労施設等への経営指導
- ・農福連携でのGAPの実施の推進

3 取組の輪の拡大

- ・各界関係者が参加するコンソーシアムの設置、優良事例の表彰・横展開
- ・障害者優先調達推進法の推進とともに、関係団体等による農福連携の横展開等の推進への期待

III 農福連携の広がりの推進

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、地域共生社会の実現へ

1 「農」の広がりへの支援

林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け障害者就労のモデル事業の創設

2 「福」の広がりへの支援

高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の就労・社会参画の機会の確保や、犯罪や非行をした者の立ち直りに向けた取組の推進

農福連携等推進ビジョンに基づく各種取組の推進

現状・課題

「知られていない」

- これまでは関心のある福祉関係者等を主なターゲットとしたセミナー等が中心で、国民全体への理解促進に向けた取組が十分行われてきていない。

「踏み出しにくい」

- 農業現場において障害特性を踏まえた助言等を行うことができる人材が不足している。
- 農業現場において障害者等を受け入れるためには、働きやすい環境を整備するとともに、農福連携の取組を通じ、その経営が経済活動として発展していくことが重要。

「広がっていない」

- 農福連携を全国的に広く展開させて、各地域において農福連携が定着するために、国・地方公共団体、関係団体等のもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として推進していくことが重要。

認知度の向上

取組の促進

取組の輪の拡大

対応

戦略的プロモーションの展開

- ノウフクJASを始めとするノウフク商品の消費者向けキャンペーンやメディアを活用した**戦略的プロモーションの実施**



ノウフクJAS認証第1号

農福連携を支援する専門的な人材の育成

- 農業分野における障害者の職場定着を支援する専門人材である「**農福連携技術支援者**」(いわゆる**農業版ジョブコーチ**)の**研修制度**を構築



人材育成研修（三重県の例）

農福連携に取り組む環境整備・経営発展の支援

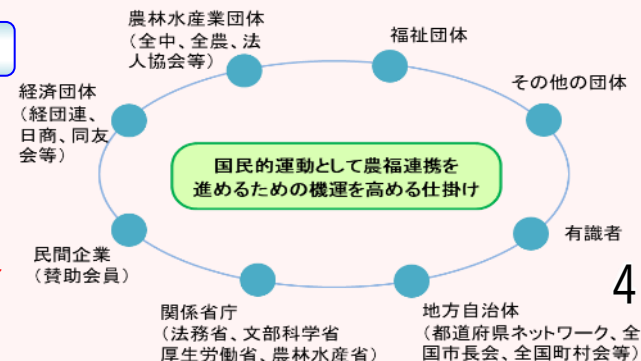
- 農山漁村振興交付金(農福連携対策)により、障害者を受け入れる際に必要となる**休憩所や手すり等の安全施設**、障害者等の雇用就労を目的とした**農業用ハウスや加工施設等の整備**を支援

農業生産施設
水耕栽培ハウス

休憩所、トイレの整備

国民的運動を展開する基盤の形成

- 国民的運動として農福連携を進めるための機運を高める仕掛けとして、各界の関係者が参加する**コンソーシアムを設置**。今後、「ノウフク・アワード」選定による**優良事例の表彰・横展開**等を実施。



農福連携を推進するためのアクション①

「認知度の向上」

ノウフクWEBによる情報発信

ノウフク

知る つながる 参加する

ノウフク マガジン

ノウフク プロジェクト

ノウフク ONLINE SHOP

農福連携等応援 コンソーシアム

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ここをクリックすると日本地図のページへジャンプします

みんなで耕そう！ ノウフク・プロジェクト

ノウフク（農福連携等）が、社会にうねりを起こしています。

ノウ（自然、農林水産業）とフク（人、福祉）の連携から、多様な役割と場をつくり、一人ひとりの存在を喜べる共生社会へ。地域の様々な課題を解決し、その価値が語られる市場の創出へ。豊かさの意味を問い直す、持続可能な未来へ。

ノウフク・プロジェクトは、ノウフクの価値を循環させるためにみんなが主体になって参加できる、新しい社会デザインのしくみです。

ノウフク・プロジェクトについて

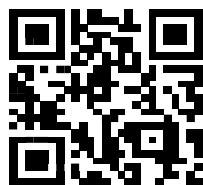
ノウフクで毎日をちょっと幸せに

丁寧に心を込めて作られたものは、日常を少しだけ豊かにする。
わたしたちはそんな願いを込めて商品をお届けしています。

森林ノ牧場
HANANOKI FARM
Kananofarm.jp

NOW
2023年9月16日～11月12日
ノウフク・アワード
2021 エントリー開始!!

- 令和3年3月、農福に関する情報(全国の相談窓口の紹介、ノウフク・マガジン等)を発信する「ノウフクWEB」を開設
- 農福商品を販売するノウフク・オンラインショップともリンク



ノウフクWEB
<https://noufuku.jp/>



障害者が生産行程に携わった食品のJAS（ノウフクJAS）

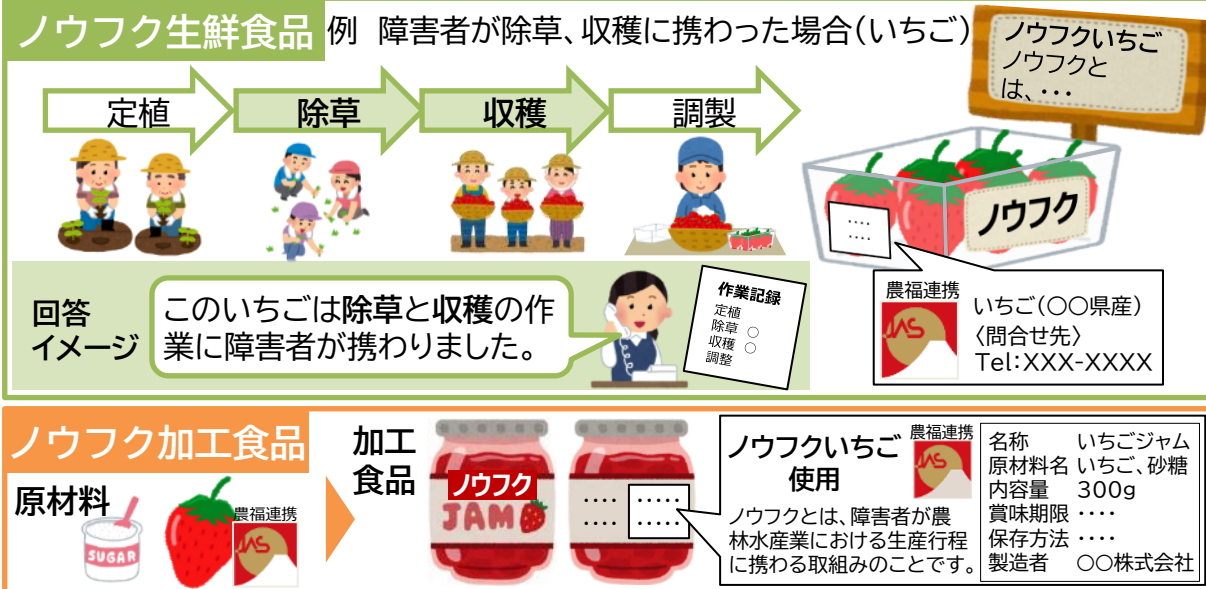
- 障害者が携わって生産した農林水産物及びこれらを原材料とした加工食品の生産方法及び表示の基準を規格化することにより、次の効果が期待。
 - ① 障害者が携わった食品の信頼性が高まり、人や社会・環境に配慮した消費行動（エシカル消費）を望む購買層に訴求することが可能に。
 - ② 「農福連携（ノウフク）」の普及を後押しすることで、農業・福祉双方の諸課題解決ツールに。

49事業者が
認証取得済
(令和5年9月現在)

※ JAS:日本農林規格＝食品・農林水産分野において農林水産大臣が定める国家規格

規格等の内容

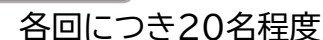
- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっている
- 障害者が携わった生産行程の情報提供
- 加工食品において使用する原材料やその管理
- 包装・容器等への表示の方法及び内容



農福連携を推進するためのアクション②

「取組の促進」

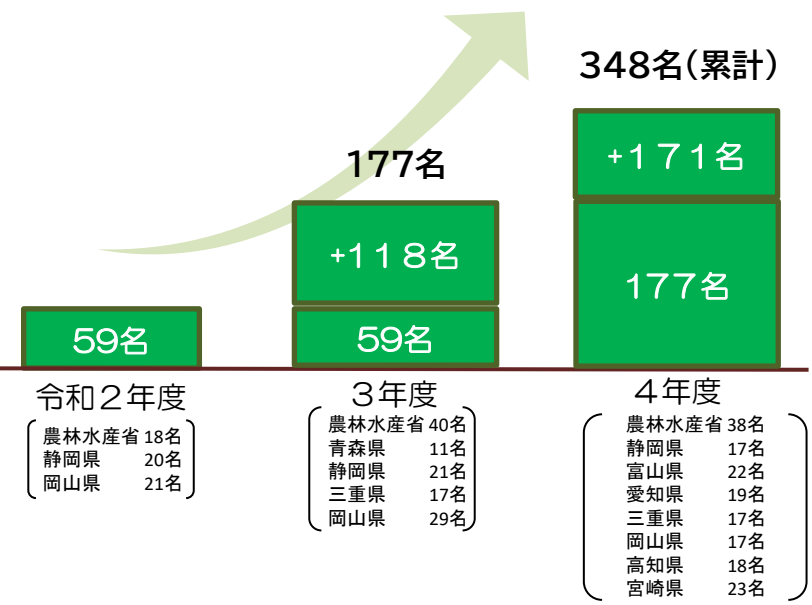
- 農福連携等推進ビジョンにおいて、「農業版ジョブコーチの仕組みを全国共通の枠組みとして構築し、専門人材を育成する」こととしており、令和2年度から、「農福連携技術支援者育成研修」(いわゆる「農業版ジョブコーチ育成研修」)を実施。
- 本研修は、農林水産省が農林水産研修所つくば館水戸ほ場で実施するほか、研修プログラムを農林水産省が策定した基準プログラムに準拠させることで、都道府県が実施することも可能。
- 農林水産省は、全ての研修課程を受講し、必要な知識と技術を身につけたと認められる者を研修修了者として認定。認定された者は、「農福連携技術支援者(農林水産省認定)」として、現場において支援。



農福連携技術支援者の認定実績

- 農林水産省は、農福連携に係る専門人材の育成のため、令和2年度から「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施。
- 令和2年度は、59名の農福連携技術支援者を認定（農林水産省及び2県で研修実施）。
令和3年度は、118名を認定（農林水産省及び4県で研修実施）。
令和4年度は、171名を認定（農林水産省及び7県で研修実施）。
- 都道府県においては、独自の農業版ジョブコーチ、施設外就労コーディネーター等の専門人材の育成も実施。
- 農林水産省の研修により農福連携の専門人材を育成するとともに、都道府県の体制構築の支援も行い、都道府県が自律的に専門人材の育成ができるよう引き続き支援。

● 農福連携技術支援者数（認定実績）



● 農福連携技術支援者研修実施県

令和2年度	静岡県、岡山県
3年度	青森県、静岡県、三重県、岡山県
4年度	静岡県、富山県、愛知県、三重県、岡山県、高知県、宮崎県
5年度	北海道、静岡県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、山口県、高知県、宮崎県、沖縄県



<対策のポイント>

農福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、障害者等に農業体験を提供するユニバーサル農園※の開設、障害者等が作業に携わる生産・加工・販売施設の整備、全国的な展開に向けた普及啓発、都道府県による専門人材育成の取組等を支援します。

※ 農業分野への就業を希望する障害者等に対し農業体験を提供する農園

<事業目標>

農福連携に取り組む主体を新たに創出（3,000件〔令和6年度まで〕）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 農山漁村発イノベーション推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の開設、移動式トイレの導入等を支援します。

【事業期間：上限2年間、交付率：定額（簡易整備、高度経営、介護・機能維持の場合は上限150万円、経営支援の場合は上限300万円、作業マニュアルの作成等に取り組む場合は初年度の上限額にそれぞれ40万円加算）】

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福連携の全国的な横展開に向けた取組、農福連携の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

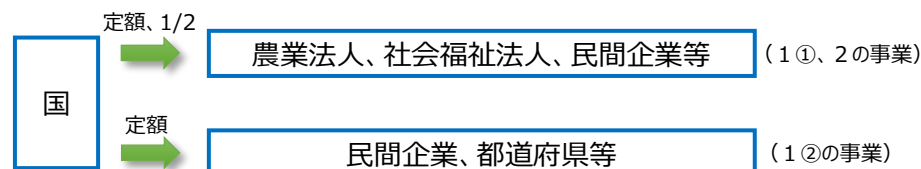
【事業期間：1年間、交付率：定額（上限500万円等）】

2. 農山漁村発イノベーション整備事業（農福連携型）

障害者等が作業に携わる生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

【事業期間：上限2年間、交付率：1/2（簡易整備の場合は上限200万円、高度経営の場合は上限1,000万円、経営支援の場合は上限2,500万円、介護・機能維持の場合は上限400万円）】

<事業の流れ>



1. 農山漁村発イノベーション推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業



農産加工の実践研修



養殖籠補修・木工技術習得



移動式トイレの導入



ユニバーサル農園の開設

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業



普及啓発に係る取組



人材育成研修

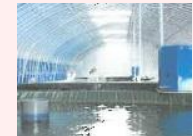
2. 農山漁村発イノベーション整備事業（農福連携型）



農業生産施設（水耕栽培ハウス）



苗木生産施設



養殖施設



休憩所、トイレの整備



園地、園路整備



処理加工施設

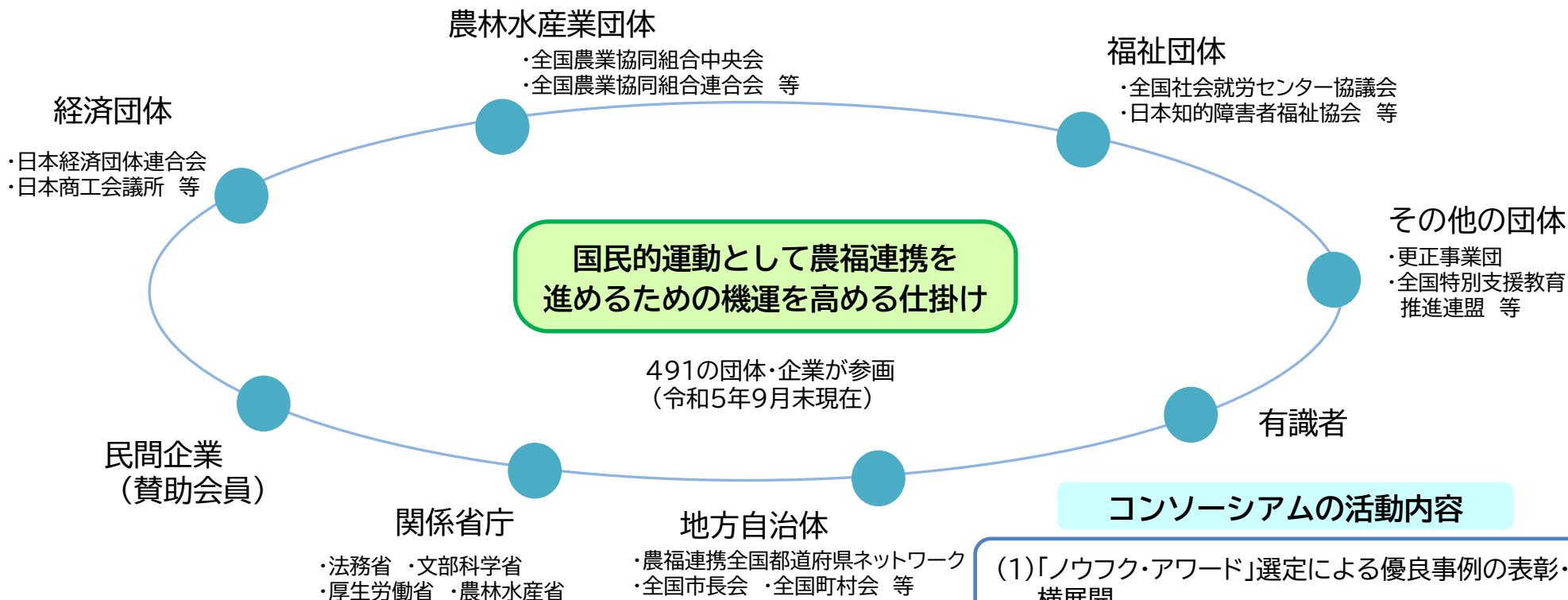
農福連携を推進するためのアクション③

「取組の輪の拡大」

農福連携等応援コンソーシアム

- 国、地方公共団体、関係団体等はもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んで、国民的運動として農福連携等を展開。

農福連携等応援コンソーシアムの構成



コンソーシアムの活動内容

- (1)「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開
- (2)農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催
- (3)農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進
- (4)農福連携等に関する情報提供 等

コンソーシアム入会に関するお問合せ先
 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室
 TEL:03-3502-0033
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/conso.html>

「ノウフク・アワード2022」表彰23団体

No. 1 北海道 新得町

農事組合法人 共働学舎新得農場

- ・ソーシャルファームの草分け的存在
- ・畜産、野菜を主として、チーズ等の加工や6次産業化にも取り組みレストランを運営
- ・チーズでは国際的な賞も受賞

グランプリ

No. 2 山形県 鶴岡市

社会福祉法人 月山福祉会

- ・畜産（短角牛）や野菜・果樹に取り組み認定農業者を取得
- ・高工賃の実現や地域におけるチャリティイベント等の多角的な活動により地域の中心的存在となる

準グランプリ
(未来を耕す)

No. 7 三重県 鈴鹿市

社会福祉法人朋友 就労継続支援B型事業所Cotti菜

- ・カフェ運営や総菜製造等、活動の幅を広げた取組により、高い工賃を実現
- ・理事が設立メンバーとして、一般社団法人三重県障がい者就労促進協議会を設立し、県内の普及に貢献している

準グランプリ
(人を耕す)

No. 9 和歌山県 有田川町

社会福祉法人有田つくし福祉会 早月農園

- ・地域の中核的な取組へと年月をかけて成長、農地も5haと広く温州みかんを中心とした柑橘類を栽培
- ・法人内で6次産業化にも取り組み、高工賃を実現、一般就労移行者も輩出している

優秀賞

No. 10 山口県 阿武町

社会福祉法人E.G.F のんきな農場阿武事業所

- ・地域の農作業支援を積極的に行うとともに、自ら農業や6次産業化にも取り組み、県平均を上回る工賃を確保し、地域農業を支える存在となっている

優秀賞

No. 11 長崎県 長崎市

社会福祉法人出島福祉村

- ・びわ茶等の加工品やカフェ運営など幅広い活動を通じ、障害者が一生安心して暮らせる住環境の整備に取り組んでいる
- ・認定農業者となり、社会福祉法人としては日本で初めて6次産業化事業計画の認定を受ける

優秀賞

No. 4 群馬県 前橋市

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花

- ・約14haの農地で障害者23名が野菜栽培に従事
- ・地元農業に対する出荷割合も高く、地域農業の中核として、県平均を大きく上回る高工賃を実現
- ・一般就労移行者も輩出

グランプリ

No. 3 栃木県 小山市

社会福祉法人パステル 多機能型事業所CSWおとめ

- ・地域の桑生産を守る担い手、桑の葉や桑の実製品で6次産業化にも取り組み、高工賃を実現
- ・来年度からは、地域の「稚蚕飼育事業」をJAから継承

準グランプリ
(地域を耕す)

No. 5 静岡県 静岡市

株式会社サンファーマーズ

- ・高糖度トマトのハウス栽培により障害者3名を従業員と同じ賃金で雇用し、一人一人が活躍できる環境を整備
- ・地域の幼稚園と食育活動を連携して行っている

優秀賞

No. 6 石川県 内灘町

株式会社笠間農園

- ・近隣の多数の事業所と連携して栽培面積を数倍に拡大し、地域農業への貢献や工賃の向上を実現
- ・県の農福連携促進アドバイザーとして県内のマッチングにも貢献

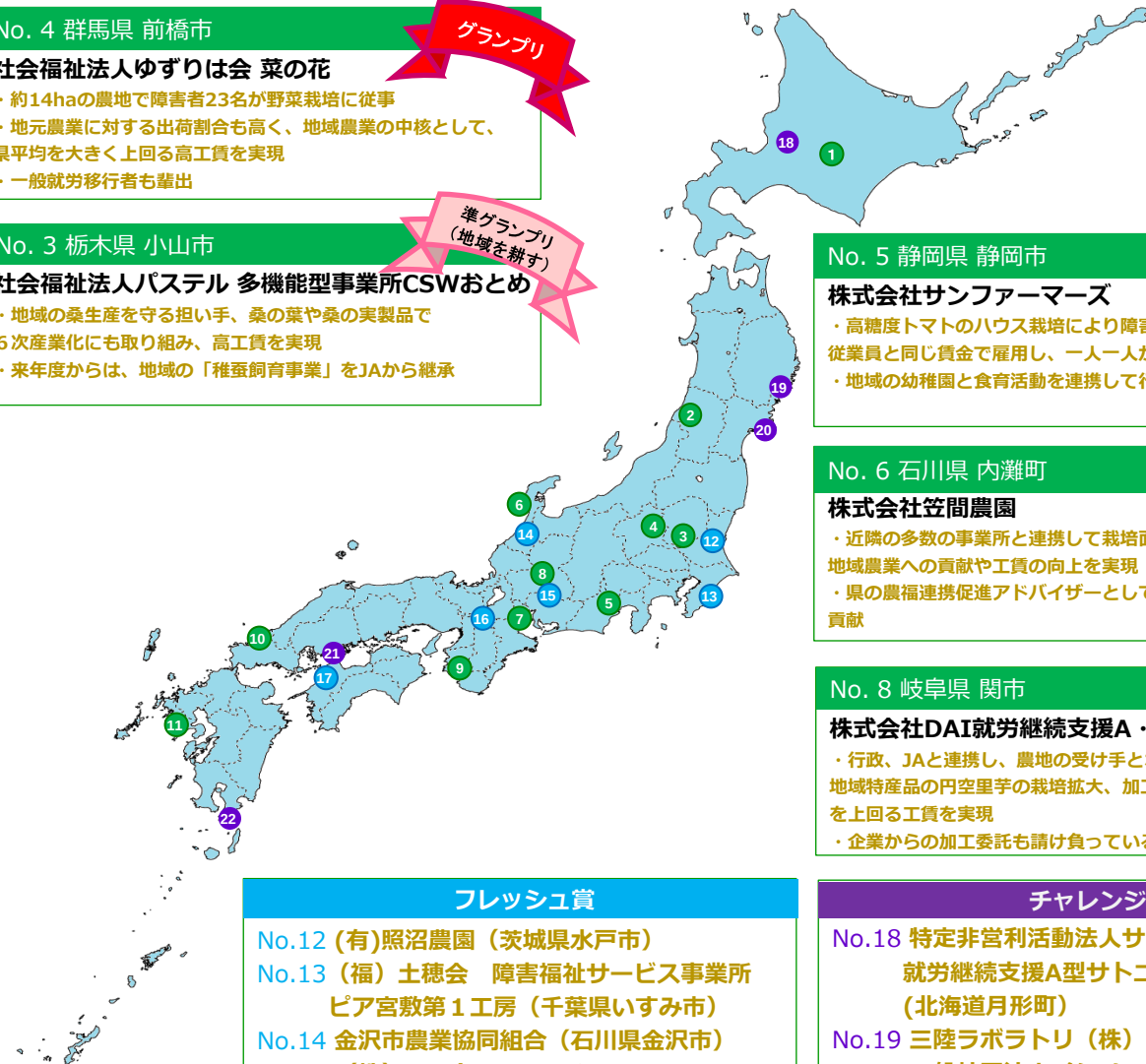
優秀賞

No. 8 岐阜県 関市

株式会社DAI就労継続支援A・B型それいゆ

- ・行政、JAと連携し、農地の受け手となって農業に取り組み、地域特産品の円空里芋の栽培拡大、加工の受託等により県平均を上回る工賃を実現
- ・企業からの加工委託も請け負っている

優秀賞



フレッシュ賞

- No.12 (有)照沼農園 (茨城県水戸市)
No.13 (福)土穂会 障害福祉サービス事業所
ピア宮数第1工房 (千葉県いすみ市)
No.14 金沢市農業協同組合 (石川県金沢市)
No.15 (株)ココトモファーム
(愛知県犬山市)
No.16 三休 - SANKYU - (京都府京田辺市)
No.17 (株)和光ワールド (愛媛県伊予市)

チャレンジ賞

- No.18 特定非営利活動法人サトニクラス
就労継続支援A型サトニクラス厨房
(北海道月形町)
No.19 三陸ラボラトリ (株) (岩手県大船渡市)
No.20 一般社団法人イシノマキ・ファーム
(宮城県石巻市)
No.21 (株)八天堂ファーム (広島県三原市)
No.22 大隅半島ノウフクコンソーシアム
(鹿児島県南大隅町)
No.23 (福)みやこ福祉会 (沖縄県宮古島市)

探究

実践者による講演を含む勉強会、ワークショップ形式による意見交換会等の実施

課題

これまで、トイレ、テクノロジー等をテーマにラボ活動を行ってきたが、ノウフクの現場にはまだまだ多くの解決すべきテーマが存在

ノウフク現場の課題に関する意見交換等の実施

意見交換会

- ・農閑期における就労先の確保
- ・コーディネーターの確保とその活用
- ・取組の継続方法

企業勉強会

- ・企業の農福連携への参画方法

取組のフォロー

トイレやテクノロジーに関する継続的な優良事例収集

実践

ノウフク商品の「販路拡大」をテーマにマッチング支援を実施

課題

価格の設定や商品の質、生産量の供給不足など、流通に関する問題が多く、十分な販路を確保できていない

ノウフク商品の販路拡大に向けた取組の実施

ノウフク見本市

農福連携事業者が、流通・食品加工等に関わるバイヤーに対し、対面形式により試食等を通じてノウフク商品の魅力を伝達

実施日

8月24日(木) 10時～16時

1日中活気あふれる商談が行われ多くの農産物が成約

テスト販売

ECサイトと連動した都内実店舗でのテスト販売を実施し、小売店での取り扱いを広げるための営業資料を作成するとともに、消費者への認知拡大を図る

実施期間

11月11日(土)～26日(日)

実施場所

新宿マルイ B1F

フォーラム・マルシェ開催のお知らせ

- 農福連携の取組を広く普及させるため、これまでにノウフク・アワードで受賞歴のある団体が登壇し、開催地域の実情に応じたテーマ設定したフォーラムを全国8地区で開催。
- 開催地の農福連携実践者が多数出店するマルシェも同時開催

会場の様子

札幌会場



仙台会場



農福連携フォーラム & マルシェ

— 農福連携魅力物語 —

全国8か所で開催されるフォーラムでは、農福連携を取組まれている方々にご登壇いただき、地域での取組を広げていくことを目的に開催します。マルシェも開催しますので、ぜひ丹精を含めて育てられた農産物などと共に、魅力的な取組に触れてみませんか？

最新の状況はこちら

R5年度 全国8か所で開催！

in 札幌 **終了**

フォーラム ASTY45
マルシェ 札幌駅前通地下広場 北大通交差点広場(東)
登壇者 農事組合法人 共働学会 新得農場 ほか

in 仙台 **終了**

フォーラム SS30
マルシェ AER
登壇者 社会福祉法人 月山福祉会 ほか

in 金沢 **終了**

フォーラム TKP金沢新幹線口
マルシェ 金沢駅東もてなしドーム地下広場
登壇者 (株)笠間農園 ほか

in 岡山 **終了**

フォーラム 第一セントラルビル
マルシェ イオンモール岡山
登壇者 安芸市 農福連携研究会 ほか

in 京都 **終了**

フォーラム TKPガーデンシティ 京都タワーホテル
マルシェ 京都駅コトチカ広場
登壇者 (株)いずみ エコロジーファーム ほか

in 名古屋 **11/9 (木)**

フォーラム 名古屋 三交ビル
マルシェ 名古屋駅桜通口 JRゲートタワー
登壇者 社会福祉法人 友友 ほか

in 長崎 **12/7 (木)**

フォーラム 長崎駅付近
マルシェ 長崎駅付近
登壇者 候補者選定中 ほか

in 東京 **R6.1 開催**

フォーラム KITTE
マルシェ KITTE
登壇者 社会福祉法人 ゆずりは会 菜の花 ほか

※令和5年8月15日時点(変更となる場合があります)

主催：株式会社農都共生総合研究所 **ノウフク**



ご静聴有難うございました

農業



福祉

農福連携専用ポータルサイト「ノウフクWeb」も是非ご覧下さい。

ノウフクWeb

検索



<https://noufuku.jp/>